

総合優勝 銀河「仲間と掴んだ優勝と感動」

第55回学園祭開幕



銀河チームリーダーの
小椋冬馬さん

第55回倉吉東学園祭が7月5日から9日まで5日間行われた。各チームが完成度の高い演劇や合唱、プレコンを作り上げた中、銀河チームが総合優勝を果たした。ナイスな笑顔で総合優勝へと導いたチームリーダーの小椋冬馬さん(3年3組)にインタビューを行った。



何度目でも疲れを見せないパワー溢れる銀河チームコール
倉東生全員が集合し、学園祭の最後を彩った

優勝のプレッシャー

小椋さんが1・2年生の時にも銀河チームが優勝していた。今年も優勝しなければというプレッシャーが小椋さんにもクラスの仲間にもあったそうだ。3冠を獲れなくて申し訳なく残念な気持ちもあったが、プレッシャーから解放されたと同時に「それまで頑張ってきたことが報われた」とうれしそうに語った。紅炎チームがプレコンと演劇で2冠を獲ったので、負けたかもしれないと心配したそうだ。優勝と知った瞬間はすごく感動したという。

彼女と花火

個人的な学園祭1番の思い出は「彼女とクラス企画に行ったり、花火を見たりしたことです」と幸せそうだった。

支えてくれた仲間

今回の学園祭でサブリーダーの岩垣優人さん、山崎響さんや友達の矢吹勇斗さんが支えになった。チームリーダーとして考えなければいけないこと、上手いかわないことがあり、愚痴を言ってしまうことがあったそうだ。「それでも一緒に寄り添っ

115号

7月23日発行
倉吉東高新聞部

て考えてくれたり、僕の仕事を減らそうとしてくれたことにとても感謝しています」と仲間への思いを語った。

「Lv.1」の達成

前の学園祭を超えられたかとの質問に対して、「正直微妙です。昨年のチームリーダーならもっと上手くできたんだろうな、3冠獲れたんだらうなと思います。僕自身は超えられなかったけれど銀河チームとしては超えられた、倉東全体として負けてないと思います。倉東生全員がレベルアップできた良い学園祭でした」と胸を張った。

全員が勝ち取った総合優勝が何よりもうれしかったです。ありがとうございます！

by どうま
(小椋)



役に入り込む山名さん(左)と河本さん(右)

青嶺演劇「シャドーボクシング」 特別な大きい達成感を感じた

学園祭最終日に行われた青嶺チームの演劇「シャドーボクシング」。責任者の藤本幸さん(3年1組)にインタビューを行った。

青嶺チームの演劇は家族の絆と生死をテーマにした「シャドーボクシング」。陰惨ないじめを受け不登校を続ける伸(山名翔さん)がガンをわずらう豪快な祖母(河本優

チームリーダーからの誘いで責任者になった藤本さん。演劇経験はなく、的確な指示を出すことが大変だったそう。「演出の2年生や去年の責任者に協力してもらい、演劇メンバーをまとめることができて良かったです。」

周りを信頼

希さん)との対話を通して変わっていく物語。



青嶺演劇責任者
藤本幸さん

うまくいかないことや分からないことがあるときには周りのみんなを頼ることが大切だと学びました」と微笑んだ。

非日常の感動

役者の演技と音響・照明などが合わさると段々形になっていき、本番が終わった後には普段の生活にはない感動をしたそうだ。「大変なこともありましたが、最後は大きな達成感を感じました。良い経験になりました」とうれしそうに語った。(高野 正司)

合唱 翠嵐 自由曲「ほらね、」 良い思い出をありがとう



翠嵐合唱責任者
谷本花梨さん

気が好きだったのでこの曲を選びました」と自由曲への思いを語った。



なめらかなハーモニーを奏でる翠嵐チーム

「ほらね、」への想い

「ほらね、」という自由曲は合唱部のいここに教えてもらったそう。サビの三連符と曲の歌詞、雰囲気

本番ではノリノリ

練習する時に苦労したことは課題曲「故郷」の音取りと声を1つに集めること。本番の心境を聞くと「本番前は皆緊張していたけど、本番ではノリノリで歌えたと思います。本番が1番楽しかったです」と達成感に満ちた顔をみせた。

最後に合唱メンバーに対して「朝練習、放課後練習に参加してくれてありがとう。みんな『ほらね、』を歌えて良かったです。良い思い出をありがとうございました」と感謝の言葉を贈った。(津村 伊藤)